

2人が語る未

鬼北町議会議長 程内 覺

新年明けましておめでとうございませう。

町民の皆様におかれましては、ご家族おそろいで、平成30年の輝かしい新春をお元気で迎えます。新年にあたりまして、町議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

町議会におきましては、昨年4月に任期満了に伴う議員選挙が施行されました。議会改革による2名の削減があり、定数は12名でした。選挙の結果、新人4名の方々も当選され、新体制での鬼北町議会となりました。そのような中、議長選挙により、微力ではありますが、議長のお務めを担うこととなりました。これまで、皆様より温かいご指導、ご協力をいただき、議会活動ができましたことを、心より感謝いたしますとともに、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、2期8年の間、町政にご尽力いただきました甲岡秀文前町長が勇退され、4月には新しく兵頭誠亀町長が誕生しました。町長、町議会ともに、刷新されたところであります。また、10月には、急遽衆議院が解散し、誰もが準

備不足のままの選挙戦となりましたが、自民、公明の連立政権が引き続き選択されました。地方においては、「アベノミクス」と言われる効果もあまり感じられませんが、今後の政権に対し、大いに期待しています。

また、同10月、「愛顔つなぐえひめ国体」が開催されました。鬼北町においては、少年女子バレーボール競技が行われるとともに、24地区で民泊が実施されました。民泊を通し、選手や監督の皆さんと民泊協会との深い繋がりによって、会場での応援にもより一層熱を帯びていた光景が印象的でした。協力いただいた皆さんには、大変だった分喜びや感動も多く、良い思い出として、深く心に刻まれたのではないのでしょうか。その後は、松山市を中心として、全国障害者スポーツ大会「えひめ大会」が開催され、私は開会式に出席いたしました。あいにくの雨となり、雨具を着用しての式典となりましたが、選手皆さんの笑顔での行進には観客も一体となり、大きな感動と勇気をいただきました。 「えひめ国体」および「えひめ大会」は、たくさんの方々の方に大きな力を与え、

成功裏に終了したことを大変喜んでおります。

鬼北町においては、自主財源の乏しい中、自ら徹底した行政改革を断行し、以前にも増して進む少子高齢化への対応、教育文化の振興、さらに、農林業の振興にも一層力を注がなければいけないと考えています。また、生活関連社会資本の整備として、地域公共交通システム作りを早急に確立し、医療、福祉と併せて町民の皆さんが安心して暮らせる環境作りに、町行政と議会が一体となり、努力していかねばならないと思っております。これからも、ご支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。

結びになりますが、平成30年が町民の皆様にとりまして、より一層飛躍の年となり、健康で明るく幸せな年となりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。